

第七十四回  
貴族院

# 青年學校教育費國庫補助法案特別委員會議事速記錄第一號

付託議案  
青年學校教育費國庫補助法案

委員氏名

委員長 侯爵德川 義親君  
副委員長 子爵清岡 長言君

男爵紀 俊秀君  
下村 宏君

男爵大森 佳一君  
田所 美治君

小坂 順造君  
細田安兵衛君  
岩崎 清行君

昭和十四年三月十一日(土曜日)午前十時  
二十分開會

○委員長(侯爵德川義親君) ソレデハ是方

ヲ開會致シマス、先づ文部大臣ノ御説明ヲ  
願ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 只今議題ト

ナリマシタ青年學校教育費國庫補助法案ニ  
付キマシテ御説明申上ゲマス、政府ガ曩ニ  
我國勤勞青年ニ對スル教育ヲ振興スル爲ニ、  
實業補習學校ト青年訓練所ヲ綜合致シマ  
シテ、青年學校制度ヲ創設致シタノデアリ  
マスルガ、更ニ我國内外ノ情勢ニ鑑ミマシ

テ、昭和十四年度ヨリ取敢ズ男子青年ニ對  
シ、之ヲ義務教育ト爲サムト致シテ居ルノ  
デアリマス、仍テ政府ト致シマシテハ此ノ  
機會ニ於キマシテ、青年學校教育ノ發達ヲ  
助成スルト共ニ、一面地方財政ノ負擔ヲ過  
重ナラザラシムガ爲ニ、茲ニ法律ヲ以テ國  
庫ヨリ市町村ニ對シ、青年學校教員給ノ補助  
ヲ爲スノ方途ヲ確立セムトスルモノデアリマ  
ス、尙此ノ法律ノ制定セラレマシタ場合ニ  
於テハ、實業教育費國庫補助法中實業補習  
學校ニ關係スル部分ハ不必要ト相成リマス  
ノデ、之ヲ削除スル必要ガアリマス、仍テ  
本法律ノ附則ニ於キマシテ、是ガ改正ヲ施  
サムトスルモノデアリマス、何卒宜シク御  
審議アラムコトヲ切望致シマス

○田所美治君 本案ハ國庫補助法デ、實ハ  
此ノ法律案ソレ自身ハ誠ニ簡單ナモノデア  
リマスシ、又此ノ豫算ハ實ハ此ノ間モウ四  
百何萬圓カ可決ニナツテ居ルヤウナ譯デア  
リマスカラ、此ノ法律案ノ直接ノ審議ハ誠ニ  
簡單明瞭デアラウト思ヒマスケレドモ、此  
ノ法律案ガ出來テ來マシタ源、即チ青年學校  
ノ教育ヲ國家ノ義務トスル、斯ウ云フコト  
ニ付キマシテハ、大キナ劃期的ナ問題テ恐

ラクハ五年間、滿十九迄國民教育ヲ終ッタ  
後ニヤルト云フコトハ世界ニマダ類ノナイ  
初メテノ試ミデアルト思フノデアリマス、  
「ドイツ」邊リハ十八迄ハヤツテ居リマスガ、  
是モマダ全國ニ普及致シテ居リマスマイ、其  
ノ位ノモノデアリマスガ、各國共ニ補習教  
育ヲ義務トシテ居ル所ハ續々アルノデアリ  
マシテ、是コソ實ハ此ノ實效ヲ舉ゲルノニ  
ハ非常ナ政府ノ努力ガ要ル事柄デアラウト  
思ヒマス、既ニ教育審議會アモ此ノ國策ヲ  
答申シマシテ、ソレニ基イテ國庫補助法ガ茲  
ニ出タ、即チ政府ハ其ノ實行ニ著手シタ、  
斯ウ云フ譯デアルノデアリマスガ、私ノ如  
キ者ハ教育審議會ノ末席ニ連ツテ居リマシ  
タカラ、其ノ制度ヲ樹デルニ付キマシテノ  
概要ハ承知致シテ居リマスガ、此處デ一同  
デ本案ヲ審査スルニ付キマシテハ、今度ノ  
此ノ制度ノ本質ト、ソレカラ只今申上ゲタ  
ヤウナ實行上非常ナ奮發努力ガ要ル譯ナン  
デアリマスカラ、其ノ效果ヲ擧ゲルニ付テ  
ドウ云フ計畫デ進メラレルカ、單ニ此ノ補  
助法ダケデ、是ハ到底行ケルモノデハナイ  
ノデアリマス、機關ヲ整備モ要リマスシ、  
又俸給手當ダケニ補助シテソレデヨイモノノ  
ガ、ソレハ一面テ來年カラ義務教育ノ延長ヲ

實施サレルト云フコトニナルト、ソレトモ直グニ重ナリ合ツテ來ル譯ニナルノデアリマスガ、其處ガドウ云フヤウナ轉換ヲオ執リニナルカ、或ハ賞分ノ中兩方併行シテオヤリニナルカ、數ノ上カラ申シマスレバソレモ出來マセウカト思ヒマスガ、審議會ノ決議ハ、義務教育ノ年限延長ノ曉ニハ又普通科ノ方ト重複スル譯デアルカラソレハ止メルト云フ……又普通科ノ義務制、本科ノ五年ノ義務制、是トテ大變ナ譯ナノデアリマスガ、通ジテハ七年ヤル、サウ云フコトモ答申ニナシテ居ルヤウデアリマスガ、其處ラノコトニ付キマシテ一應本案ノ本質ヲ明ニ致シマシテ、サウシテ適正ナル審議ヲ致シタイ、コンナニ考ヘルノデアリマスカラ、大臣ガ御説明下サレバ此ノ上モゴザイマセヌガ、政府委員カラデ宜シウゴザイマスカラ、我々ノ参考ニナリマスダケノ事柄ヲ出来ルダケ詳細今日承ッテ置キマスト、明日、明後日カラ審議ヲ致シマスニ便宜ダト考ヘテ居リマス

○國務大臣(馬齋荒木貞夫君) 梗概ダケヲ私カラ申上ゲマシテ、尙詳細ナ點ハ政府委員カラ御説明申上ゲルコトニ致シマス、國民學校ノ義務制ハ私モ出來ルダケ早クヤリタイ、斯ウ云フ考カラ今ノ處急ガセテ居ルノデアリマスカ、又教員ノ養成、カリニナルカ、數ノ上カラ申シマスレバソレモ出來マセウカト思ヒマスガ、審議會ノ決議ハ、義務教育ノ年限延長ノ曉ニハ又普通科ノ方ト重複スル譯デアルカラソレハ止メルト云フ……又普通科ノ義務制、本科ノ五年ノ義務制、是トテ大變ナ譯ナノデアリマスガ、通ジテハ七年ヤル、サウ云フコトモ答申ニナシテ居ルヤウデアリマスガ、其處ラノコトニ付キマシテ一應本案ノ本質ヲ明ニ致シマシテ、サウシテ適正ナル審議ヲ致シタイ、コンナニ考ヘルノデアリマスカラ、大臣ガ御説明下サレバ此ノ上モゴザイマセヌガ、政府委員カラデ宜シウゴザイマスカラ、我々ノ参考ニナリマスダケノ事柄ヲ出来ルダケ詳細今日承ッテ置キマスト、明日、明後日カラ審議ヲ致シマスニ便宜ダト考ヘテ居リマス

○國務大臣(馬齋荒木貞夫君) 梗概ダケヲ私カラ申上ゲマシテ、尙詳細ナ點ハ政府委員カラ御説明申上ゲルコトニ致シマス、國民學校ノ義務制ハ私モ出來ルダケ早クヤリタイ、斯ウ云フ考カラ今ノ處急ガセテ居ルノデアリマスカ、又教員ノ養成、カリニナルカ、數ノ上カラ申シマスレバソレモ出來マセウカト思ヒマスガ、審議會ノ決議ハ、義務教育ノ年限延長ノ曉ニハ又普通科ノ方ト重複スル譯デアルカラソレハ止メルト云フ……又普通科ノ義務制、本科ノ五年ノ義務制、是トテ大變ナ譯ナノデアリマスガ、通ジテハ七年ヤル、サウ云フコトモ答申ニナシテ居ルヤウデアリマスガ、其處ラノコトニ付キマシテ一應本案ノ本質ヲ明ニ致シマシテ、サウシテ適正ナル審議ヲ致シタイ、コンナニ考ヘルノデアリマスカラ、大臣ガ御説明下サレバ此ノ上モゴザイマセヌガ、政府委員カラデ宜シウゴザイマスカラ、我々ノ参考ニナリマスダケノ事柄ヲ出来ルダケ詳細今日承ッテ置キマスト、明日、明後日カラ審議ヲ致シマスニ便宜ダト考ヘテ居リマス

○國務大臣(馬齋荒木貞夫君) 梗概ダケヲ私カラ申上ゲマシテ、尙詳細ナ點ハ政府委員カラ御説明申上ゲルコトニ致シマス、國民學校ノ義務制ハ私モ出來ルダケ早クヤリタイ、斯ウ云フ考カラ今ノ處急ガセテ居ルノデアリマスカ、又教員ノ養成、カリニナルカ、數ノ上カラ申シマスレバソレモ出來マセウカト思ヒマスガ、審議會ノ決議ハ、義務教育ノ年限延長ノ曉ニハ又普通科ノ方ト重複スル譯デアルカラソレハ止メルト云フ……又普通科ノ義務制、本科ノ五年ノ義務制、是トテ大變ナ譯ナノデアリマスガ、通ジテハ七年ヤル、サウ云フコトモ答申ニナシテ居ルヤウデアリマスガ、其處ラノコトニ付キマシテ一應本案ノ本質ヲ明ニ致シマシテ、サウシテ適正ナル審議ヲ致シタイ、コンナニ考ヘルノデアリマスカラ、大臣ガ御説明下サレバ此ノ上モゴザイマセヌガ、政府委員カラデ宜シウゴザイマスカラ、我々ノ参考ニナリマスダケノ事柄ヲ出来ルダケ詳細今日承ッテ置キマスト、明日、明後日カラ審議ヲ致シマスニ便宜ダト考ヘテ居リマス

大ナル責任ヲ負擔シテ居ルモノト考ヘルノ  
デアリマス、曩ニ申上ゲマシタヤウニ此ノ  
青年學校ハ其ノ前身ト致シマシテ、實業補  
習學校ト云フモノヲ持ツテ居ルノデアリマ  
スガ、既ニ大正七年、當時ノ臨時教育會議  
ニ於キマシテ、此ノ實業補習教育ハ速ニ義  
務制ト致サレダイト云フ答申ガ政府ニ提出  
サレテ居リマス、尙又昭和十年ニ於キマシ  
テ青年學校ノ制度ヲ創設致シマスル際ニ、  
當時ノ文政審議會ニ之ヲ諮詢致シマシタル  
處、當時文政審議會ニ於キマシテモ速カニ  
青年學校教育ヲ義務制ト致サレダイト云フ  
附帶ノ答申ヲ致サレテ居リマス、是等ノ答  
申モゴザイマスルノデ、政府ニ於キマシテ  
ハ青年教育ヲ速カニ義務制ト致シマスル爲  
ガ國ハ未會有ノ重大ナル時局ニ當面致シ、  
帝國ノ東亞竝ニ世界ニ於キマスル使命ハ飛  
躍的ニ重大性ヲ加ヘテ參ッタノデアリマス、  
一方又今回ノ事變ニ於キマシテ、戰線ニ於  
キマシテモ亦銃後ニ於キマシテモ、青年學  
校ノ教育ヲ受ケマシタ者ノ效果ガ極メテ十  
分ニ發揮致サレマシタコトハ各方面ノ觀察  
ノ一致致シテ居ル處デアリマス、斯ノ如キ  
狀況デアリマスルノデ、政府ハ今後ノ重大

ナル時局ニ處シマシテ我ガ國ノ青年ニ對シ  
マシテ立派ナ國民的ノ訓練ヲ徹底的ニ、又  
青年學校ハ先程申上ゲマシタ  
マシテ、爰ニ昨年一月十一日ノ閣議ニ依リ  
マシテ、取敢ズ男子青年ニ對シマシテ青年  
學校教育ヲ義務ト致シ、此ノ義務制度ヲ昭  
和十四年度ヨリ實施スルノ方針ヲ定メタノ  
デアリマス、之ニ基キマシテ文部省ニ於キ  
マシテ義務制ノ實施ノ具體的ノ計畫ヲ樹テ  
マスル爲メ爾來銳意調查研究ヲ續ケタノデ  
アリマスルガ、其ノ大體ノ成案ガ整ヒマシ  
タノデ、之ヲ教育審議會ニ提出致シマシテ  
御審議ヲ乞フタノデアリマス、爾來教育審  
議會ニ於キマシテハ極メテ慎重ニ、極メテ  
熱心ニ御審議ヲ賜リマシテ、昨年ノ七月ニ  
文部省ノ原案ヲ可トスルノ御答申ヲ賜リマ  
シタ、尙其ノ際ニ教育審議會トシテ男子青  
少年ニ對シマシテ、青年學校教育ヲ義務ト致  
スニ付キマシテ政府ニ要望スル數點ノ事項  
ヲ提示致サレマシテ、此ニ於キマシテ文部  
省ニ於キマシテハ此ノ教育審議會ノ御答申  
ヲ基礎ト致シ、更ニ關係各方面ト折衝ヲ續  
ケマシテ、其ノ計畫ヲ定メマシテ、之ニ關  
係致シマスル豫算ヲ昭和十四年度ノ豫算ニ  
計上致シ、先頃帝國議會ノ御協贊ヲ經タヤ  
ウナ次第デアリマス、尙又關係方面ノ法令

ノ整備ヲ急イデ居ルノデアリマシテ、今回  
此ノ義務制實施ニ伴ヒマシテ、必要ト致シ  
マスル處ノ三箇ノ法律案ヲ帝國議會ニ提  
出致シマシタ次第デアリマス、其ノ一ツ  
マスル處ノ三箇ノ法律案ヲ帝國議會ニ提  
出致シマシタ次第デアリマス、其ノ一ツ  
マシテ、爰ニ昨年一月十一日ノ閣議ニ依リ  
マシテ、取敢ズ男子青年ニ對シマシテ青年  
學校教育ヲ義務ト致シ、此ノ義務制度ヲ昭  
和十四年度ヨリ實施スルノ方針ヲ定メタノ  
デアリマス、之ニ基キマシテ文部省ニ於キ  
マシテ義務制ノ實施ノ具體的ノ計畫ヲ樹テ  
マスル爲メ爾來銳意調查研究ヲ續ケタノデ  
アリマスルガ、其ノ大體ノ成案ガ整ヒマシ  
タノデ、之ヲ教育審議會ニ提出致シマシテ  
御審議ヲ乞フタノデアリマス、爾來教育審  
議會ニ於キマシテハ極メテ慎重ニ、極メテ  
熱心ニ御審議ヲ賜リマシテ、昨年ノ七月ニ  
文部省ノ原案ヲ可トスルノ御答申ヲ賜リマ  
シタ、尙其ノ際ニ教育審議會トシテ男子青  
少年ニ對シマシテ、青年學校教育ヲ義務ト致  
スニ付キマシテ政府ニ要望スル數點ノ事項  
ヲ提示致サレマシテ、此ニ於キマシテ文部  
省ニ於キマシテハ此ノ教育審議會ノ御答申  
ヲ基礎ト致シ、更ニ關係各方面ト折衝ヲ續  
ケマシテ、其ノ計畫ヲ定メマシテ、之ニ關  
係致シマスル豫算ヲ昭和十四年度ノ豫算ニ  
計上致シ、先頃帝國議會ノ御協贊ヲ經タヤ  
ウナ次第デアリマス、尙又關係方面ノ法令

ノ整備ヲ急イデ居ルノデアリマシテ、今回  
此ノ義務制實施ニ伴ヒマシテ、必要ト致シ  
マスル處ノ三箇ノ法律案ヲ帝國議會ニ提  
出致シマシタ次第デアリマス、其ノ一ツ  
マスル處ノ三箇ノ法律案ヲ帝國議會ニ提  
出致シマシタ次第デアリマス、其ノ一ツ  
マシテ、爰ニ昨年一月十一日ノ閣議ニ依リ  
マシテ、取敢ズ男子青年ニ對シマシテ青年  
學校教育ヲ義務ト致シ、此ノ義務制度ヲ昭  
和十四年度ヨリ實施スルノ方針ヲ定メタノ  
デアリマス、之ニ基キマシテ文部省ニ於キ  
マシテ義務制ノ實施ノ具體的ノ計畫ヲ樹テ  
マスル爲メ爾來銳意調查研究ヲ續ケタノデ  
アリマスルガ、其ノ大體ノ成案ガ整ヒマシ  
タノデ、之ヲ教育審議會ニ提出致シマシテ  
御審議ヲ乞フタノデアリマス、爾來教育審  
議會ニ於キマシテハ極メテ慎重ニ、極メテ  
熱心ニ御審議ヲ賜リマシテ、昨年ノ七月ニ  
文部省ノ原案ヲ可トスルノ御答申ヲ賜リマ  
シタ、尙其ノ際ニ教育審議會トシテ男子青  
少年ニ對シマシテ、青年學校教育ヲ義務ト致  
スニ付キマシテ政府ニ要望スル數點ノ事項  
ヲ提示致サレマシテ、此ニ於キマシテ文部  
省ニ於キマシテハ此ノ教育審議會ノ御答申  
ヲ基礎ト致シ、更ニ關係各方面ト折衝ヲ續  
ケマシテ、其ノ計畫ヲ定メマシテ、之ニ關  
係致シマスル豫算ヲ昭和十四年度ノ豫算ニ  
計上致シ、先頃帝國議會ノ御協贊ヲ經タヤ  
ウナ次第デアリマス、尙又關係方面ノ法令

ノ整備ヲ急イデ居ルノデアリマシテ、今回  
此ノ義務制實施ニ伴ヒマシテ、必要ト致シ  
マスル處ノ三箇ノ法律案ヲ帝國議會ニ提  
出致シマシタ次第デアリマス、其ノ一ツ  
マスル處ノ三箇ノ法律案ヲ帝國議會ニ提  
出致シマシタ次第デアリマス、其ノ一ツ  
マシテ、爰ニ昨年一月十一日ノ閣議ニ依リ  
マシテ、取敢ズ男子青年ニ對シマシテ青年  
學校教育ヲ義務ト致シ、此ノ義務制度ヲ昭  
和十四年度ヨリ實施スルノ方針ヲ定メタノ  
デアリマス、之ニ基キマシテ文部省ニ於キ  
マシテ義務制ノ實施ノ具體的ノ計畫ヲ樹テ  
マスル爲メ爾來銳意調查研究ヲ續ケタノデ  
アリマスルガ、其ノ大體ノ成案ガ整ヒマシ  
タノデ、之ヲ教育審議會ニ提出致シマシテ  
御審議ヲ乞フタノデアリマス、爾來教育審  
議會ニ於キマシテハ極メテ慎重ニ、極メテ  
熱心ニ御審議ヲ賜リマシテ、昨年ノ七月ニ  
文部省ノ原案ヲ可トスルノ御答申ヲ賜リマ  
シタ、尙其ノ際ニ教育審議會トシテ男子青  
少年ニ對シマシテ、青年學校教育ヲ義務ト致  
スニ付キマシテ政府ニ要望スル數點ノ事項  
ヲ提示致サレマシテ、此ニ於キマシテ文部  
省ニ於キマシテハ此ノ教育審議會ノ御答申  
ヲ基礎ト致シ、更ニ關係各方面ト折衝ヲ續  
ケマシテ、其ノ計畫ヲ定メマシテ、之ニ關  
係致シマスル豫算ヲ昭和十四年度ノ豫算ニ  
計上致シ、先頃帝國議會ノ御協贊ヲ經タヤ  
ウナ次第デアリマス、尙又關係方面ノ法令

ノ整備ヲ急イデ居ルノデアリマシテ、今回  
此ノ義務制實施ニ伴ヒマシテ、必要ト致シ  
マスル處ノ三箇ノ法律案ヲ帝國議會ニ提  
出致シマシタ次第デアリマス、其ノ一ツ  
マスル處ノ三箇ノ法律案ヲ帝國議會ニ提  
出致シマシタ次第デアリマス、其ノ一ツ  
マシテ、爰ニ昨年一月十一日ノ閣議ニ依リ  
マシテ、取敢ズ男子青年ニ對シマシテ青年  
學校教育ヲ義務ト致シ、此ノ義務制度ヲ昭  
和十四年度ヨリ實施スルノ方針ヲ定メタノ  
デアリマス、之ニ基キマシテ文部省ニ於キ  
マシテ義務制ノ實施ノ具體的ノ計畫ヲ樹テ  
マスル爲メ爾來銳意調查研究ヲ續ケタノデ  
アリマスルガ、其ノ大體ノ成案ガ整ヒマシ  
タノデ、之ヲ教育審議會ニ提出致シマシテ  
御審議ヲ乞フタノデアリマス、爾來教育審  
議會ニ於キマシテハ極メテ慎重ニ、極メテ  
熱心ニ御審議ヲ賜リマシテ、昨年ノ七月ニ  
文部省ノ原案ヲ可トスルノ御答申ヲ賜リマ  
シタ、尙其ノ際ニ教育審議會トシテ男子青  
少年ニ對シマシテ、青年學校教育ヲ義務ト致  
スニ付キマシテ政府ニ要望スル數點ノ事項  
ヲ提示致サレマシテ、此ニ於キマシテ文部  
省ニ於キマシテハ此ノ教育審議會ノ御答申  
ヲ基礎ト致シ、更ニ關係各方面ト折衝ヲ續  
ケマシテ、其ノ計畫ヲ定メマシテ、之ニ關  
係致シマスル豫算ヲ昭和十四年度ノ豫算ニ  
計上致シ、先頃帝國議會ノ御協贊ヲ經タヤ  
ウナ次第デアリマス、尙又關係方面ノ法令

制度ヲ採シテ居ルノガ常デアリマス、都市方面ニ於キマシテハ、勞働時間等ノ關係ヲ加味シテ四年ヲ採シテ居ルノガ本體デアリマス、サウ云フ趣旨ニ於キマシテ今回ノ義務制ヲ實施致シマス場合ニ於テモ從前ノ制度ヲ其ノ儘踏襲致シマシテ、普通科教授訓練期間ハ二年、本科ノ教授訓練期間ハ五年、但シ土地ノ狀況ニ依シテ之ヲ四年トナスコトガ出來ルトス様ニ致シタイト考ヘテ居リマス、是ガ要綱ノ第一、第二ニ書イテアルモノデゴザイマス、第三ハ先程申上ゲマシタヤウニ入學資格デアリマス、次ニ青年學校ニ於キマス所ノ教授及訓練ノ時間デゴザイマスガ、是モ大體從前ノ制度ヲ踏襲シテ居リマス、即チ男子ニ付テ申シマスト、普通科ノ二年竝ニ本科ノ一年、二年ハ一年ガ二百十時間以上ト致シテ居リマス、而シテ本科ノ二年竝ニ本科ノ一年、二年ハ一年ガ二百十時間以上トシテ居リマス、唯併シナガラ力性ヲ持タセマシテ、適宜ノ時間數ヲ決メ得ルコトト致シテ居リマス、此ノ限定スル義務制ヲ實行致ス場合ニ、義務トシテ強制致シマス場合ニ於キマシテ、之ヲ限定スルコトヲ適當ト致シマスノデ、義務トシテ課

十時又ハ百八十時ト大體限定致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、而シテ此ノ青年學校ニ於テ課スル所ノ科目ハドウ云フモノデアルカト申シマスト、青年學校ニ於キマシテハ、努メテ此ノ學科目ハ之ヲ綜合的ニ行繕ヲ十分ニ致シ、且又其ノ學校ニ於ケル所ノ教育ト學校外ニ於ケル所ノ實際生活ト職業生活トノ連鎖ト云フコトニ付キマシテ重點ヲ置キマシテ、最モ實際的ナ、而シテ偏智的ニナリマスコトヲ避ケマシテ、努メテ實踐的ナ教育ヲ施スコトヲ本旨ト致シテ居ルノデアリマス、其ノ教授訓練科目ハ男子ニ付キマシテハ、其ノ要綱ノ第五ニ記載シテゴザイマスガ、修身及公民科、普通學科、職業科竝ニ體操科、體操科ハ普通科ハ體操科ト申シマシテ、本科ニ於キマシテハ之ヲ教練科ト申シテ居ルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ科目ニ分シテ居ル、即チ四科目ニ分テ居ルノデアリマス、此ノ四科目ノ大キク分チマシタ所ノ科目、之ヲ又相互ニ連絡輔掖セシム、教育ハ先程申上ゲマシタヤウニ實際生活トノ連絡輔掖ヲ致サセマシテ、此ノ男女青年ニ對シマシテ心身ヲ陶冶シ、又實際生活スペキ時間ハ之ヲ今ノ最低時數、即チ二百

ナル帝國ノ青年ヲ作り上ゲルト云フコトヲ此ノ學校ニ於テハ目的ト致シテ居ルヤウナ次第デアリマス、今回義務制ニ致シマシタ場合ニ於キマシテ、其ノ教授及訓練課目ハ大體從前ノ制度ヲ其ノ儘踏襲致スコトニナツヒマシテ、科目ヲ極メテ簡素ニ致シテ居リマス、而シテ此ノ相互ノ間ニ於ケル所ノ聯繫ヲ十分ニ致シ、且又其ノ學校ニ於ケル所ノ教育ト學校外ニ於ケル所ノ實際生活ト職業生活トノ連鎖ト云フコトニ付キマシテ重點ヲ置キマシテ、最モ實際的ナ、而シテ偏智的ニナリマスコトヲ避ケマシテ、努メテ實踐的ナ教育ヲ施スコトヲ本旨ト致シテ居ルノデアリマス、就キマシテハ、之ヲ義務制トスル場合ニ於テハ教科書ノ內容ヲ適正ナラシムルコトガ必要ト思ヒマスノデ、検務制トスル場合ニ於キマシテ、其ノ豫算ヲ計上致シマシテ、既ニ今日實施致シテ居ルノデアリマス、尙教育審議會ノ御答申ガアリマシテ、修身及公民科ニ付キマシテハ、國定教科書ノ編纂ヲ適當トスルト云フ御答申ガゴザイマシタノデ、此ノ御答申ニ基キマシテ修身及公民科ニ付キマシテハ、國定教科書ヲ編纂スルコトニ致シマシテ、昭和十四年度ノ豫算ニ之ニ關係致シマス費用ヲ計上致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、大

體青年學校ノ制度ハ、以上ノ如キモノデアリマスガ、此ノ青年學校ニ對シマシテ男子青年ハ就學スルコトヲ義務ト致スト云フコトガ今回ノ義務制度ノ根幹デゴザイマス、話ガゴザイマシタ通リニ、年齡滿十二歲、十二歲ト申シマスノハ即チ尋常小學校ヲ卒業致シマシタ時デゴザイマス、滿十二歲カラ滿十九歲ニ至リマス間ニ於キマシテ、正ナラシムルコトガ必要ト思ヒマスノデ、檢務制トスル場合ニ於キマシテ、其ノ豫算ヲ計上致シマシテ、此ノコトハ今年度、伊ト考ヘテ居リマス、此ノコトハ今年度、昭和十三年度ニ於キマシテ、其ノ豫算ヲ計上致シマシテ、既ニ今日實施致シテ居ルノデアリマス、尙教育審議會ノ御答申ガアリマシテ、修身及公民科ニ付キマシテハ、國定教科書ノ編纂ヲ適當トスルト云フ御答申ガゴザイマシタノデ、此ノ御答申ニ基キマシテ修身及公民科ニ付キマシテハ、國定教科書ヲ編纂スルコトニ致シマシテ、昭和十四年度ノ豫算ニ之ニ關係致シマス費用ヲ計上致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、大コトガ、此ノ義務教育ノ本旨ト致スヤウニ

ナッテ居リマス、大變餘談デアリマスガ、此ノ満十二歳乃至十九歳迄引續キ義務教育ヲ致スノデアリマシテ、是ハ先程申上ダマシタヤウニ修身及公民科、普通學科、職業科、教練科云フヤウナ心身ノ鍛錬ニ向ヒマシテ綜合的ナ見地ニ立チマシタ教育ヲ施スノデアリマス、外國ニ於キマシテ實業補習教育ヲ義務ト致シテ居リマスル國ハ多イノデアリマスケレドモ、此ノヤウナ廣汎ナル精神的ナ……又精神的ニ於キマシテモ、實業的ノ觀念ニ於キマシテモ、物心一ツニ致シマシタ見地ニ立チマシテ、立派ナ一個ノ日本帝國ノ青年ヲ造上げヨウト云フ、斯ウ云フ兩面的ノ見地ニ立チマシタ所ノ青年教育機關、之ヲ義務制ト致シマスコトハ、惟フニア國ニ於キマシテ初メテ行ハレル所デアリマシテ、此ノ青年學校ノ義務制ガ立派ニ遂行セラレマスレバ、誠ニ世界ニ誇ルニ足ルコトガ出來ルノデアリマシテ、當局者ト致シマシテハ、此ノ義務制ヲ立派ニ、如何ニシテ成就スルカニ付キマシテ、非常ナ責任ヲ感ジ、各方面ノ御協力ニ依リマシテ、立派ナ成績ヲ舉ゲタイト念願致シテ居ルヤウナ次第デアリマス、只今申上ダマシタヤニ、滿十二歳カラ滿十九歳ニ至リマス者

ヲ青年學校ニ收容致スノデアリマスガ、青

年學校ノ教育ハ小學校ト違ヒマシテ、是ハ基礎教育デハナイノデアリマスカラ、全國ノ年齡該當者ニ劃一的ニ青年學校ノ教育ヲ施ス云フコトヲ趣旨トスルノデナイノデアリマシテ、從ヒマシテ國家ガ認メマシテ、他ノ學校ニ於キマシテ、相當ノ教育ヲ受ケ居リマスル者ニ對シテハ、青年學校ノ教育ヲ強制スル必要ハナイノデアリマス、從ヒマシテ此ノ要綱ノ第七ニ掲ゲテゴザイマスルヤウニ、青年學校ニ參リマスル者ハ小學校或ハ中等學校等ニ就學シテ居ラナイ他ノ者ヲ目標ト致スノデアリマス、即チソコデ先程申上ダマシタヤウニ大體ノ対象ガ小學校ヲ卒業致シマシタ後ニ既ニ他ノ學校ニ通ハズニ實際ノ職業生活ヲ營ンデ居ル、斯ウ云フ者ヲ對象トスルト云フ事實上ノ結果ト相成ルノデアリマス、斯ウ云フ者ヲ對象ト致シマシテ之ヲ青年學校ニ就學致サセムノノデアリマスガ、此ノ者ヲ就學セシムリ、是ハ是等ノ青年ノ保護者ガ負ムル義務ハ、是ハ是等ノ青年ノ保護者ガ負ムル義務者ヲ定メルノデアリマスガ、瘋癲、白痴又ハ不具廢疾其ノ他已ムヲ得ナイニ就學義務者ヲ定メルノデアリマスガ、瘋癲除シ、又ハ猶豫スルコトニ相成テ居ルノ事由ガアリマス場合ニハ其ノ就學ノ義務ヲ果

会ニ於キマシテ種々實務ニ從事致シテ居リマス、次ニ青年學校ハ今日既ニ社員該當者ニ劃一的ニ青年學校ノ教育ヲ施ス云フコトヲ趣旨トスルノデアリマス、尚此ノ點ヲ受ケ居リマスル者ニ對シテハ、青年學校ノ教育ヲ強制スル必要ハナイノデアリマス、從ヒマシテ此ノ要綱ノ第七ニ掲ゲテゴザイマスルヤウニ、青年學校ニ參リマスル者ハ小學校或ハ中等學校等ニ就學シテ居ラナイ他ノ者ヲ目標ト致スノデアリマス、即チソコデ先程申上ダマシタヤウニ大體ノ対象ガ小學校ヲ卒業致シマシタ後ニ既ニ他ノ學校ニ通ハズニ實際ノ職業生活ヲ營ンデ居ル、斯ウ云フ者ヲ對象トスルト云フ事實上ノ結果ト相成ルノデアリマス、斯ウ云フ者ヲ對象ト致シマシテ之ヲ青年學校ニ就學致サセムノノデアリマスガ、此ノ者ヲ就學セシムリ、是ハ是等ノ青年ノ保護者ガ負ムル義務ハ、是ハ是等ノ青年ノ保護者ガ負ムル義務者ヲ定メルノデアリマスガ、瘋癲、白痴又ハ不具廢疾其ノ他已ムヲ得ナイニ就學義務者ヲ定メルノデアリマスガ、瘋癲除シ、又ハ猶豫スルコトニ相成テ居ルノ事由ガアリマス場合ニハ其ノ就學ノ義務ヲ果

会ニ於キマシテ種々實務ニ從事致シテ居リマス、次ニ青年學校ハ今日既ニ社員該當者ニ劃一的ニ青年學校ノ教育ヲ施ス云フコトヲ趣旨トスルノデアリマス、尚此ノ點ヲ受ケ居リマスル者ニ對シテハ、青年學校ノ教育ヲ強制スル必要ハナイノデアリマス、從ヒマシテ此ノ要綱ノ第七ニ掲ゲテゴザイマスルヤウニ、青年學校ニ參リマスル者ハ小學校或ハ中等學校等ニ就學シテ居ラナイ他ノ者ヲ目標ト致スノデアリマス、即チソコデ先程申上ダマシタヤウニ大體ノ対象ガ小學校ヲ卒業致シマシタ後ニ既ニ他ノ學校ニ通ハズニ實際ノ職業生活ヲ營ンデ居ル、斯ウ云フ者ヲ對象トスルト云フ事實上ノ結果ト相成ルノデアリマス、斯ウ云フ者ヲ對象ト致シマシテ之ヲ青年學校ニ就學致サセムノノデアリマスガ、此ノ者ヲ就學セシムリ、是ハ是等ノ青年ノ保護者ガ負ムル義務ハ、是ハ是等ノ青年ノ保護者ガ負ムル義務者ヲ定メルノデアリマスガ、瘋癲、白痴又ハ不具廢疾其ノ他已ムヲ得ナイニ就學義務者ヲ定メルノデアリマスガ、瘋癲除シ、又ハ猶豫スルコトニ相成テ居ルノ事由ガアリマス場合ニハ其ノ就學ノ義務ヲ果

用ニ依ッテ之ヲ妨ゲルコトガ出來ナイト云フ規定ヲ置イテ居ルノデアリマス、尚此ノ點ニ於キマシテハ現實ノ問題ト致シマシテハ、勞働時間トノ關係ニ於キマシテ具體的ノ問題が發生致シマスルノデ、今日法律ニ於キカラ申シマシテ最モ實際的ニ、殊ニ其ノ地方ノ實情ニ即シマシテ彈力性ヲ持タシメマスル者ガ、其ノ實務ト關聯致シマシテ教育ヲスルノデアリマシテ、其ノ教育ノ本旨シテ行フコトヲ本旨トスルノデアリマシテ、方ノ實情ニ即シマシテ彈力性ヲ持タシメマス、從ヒマシテ此ノ要綱ノ第七ニ掲ゲテゴザイマスルヤウニ、青年學校ニ參リマスル者ハ小學校或ハ中等學校等ニ就學シテ居ラナイ他ノ者ヲ目標ト致スノデアリマス、即チソコデ先程申上ダマシタヤウニ大體ノ対象ガ小學校ヲ卒業致シマシタ後ニ既ニ他ノ學校ニ通ハズニ實際ノ職業生活ヲ營ンデ居ル、斯ウ云フ者ヲ對象トスルト云フ事實上ノ結果ト相成ルノデアリマス、斯ウ云フ者ヲ對象ト致シマシテ之ヲ青年學校ニ就學致サセムノノデアリマスガ、此ノ者ヲ就學セシムリ、是ハ是等ノ青年ノ保護者ガ負ムル義務ハ、是ハ是等ノ青年ノ保護者ガ負ムル義務者ヲ定メルノデアリマスガ、瘋癲、白痴又ハ不具廢疾其ノ他已ムヲ得ナイニ就學義務者ヲ定メルノデアリマスガ、瘋癲除シ、又ハ猶豫スルコトニ相成テ居ルノ事由ガアリマス場合ニハ其ノ就學ノ義務ヲ果

其ノ委託スル途ヲ開キマス爲ニハ現在ノ地方學事通則ト云フモノニ多少ハ改正ヲ加ヘル必要アリマスノデ、是亦先程申シマシタヤウニ別ニ法律案トシテ帝國議會ニ提出致シマシテ、只今衆議院ニ於テ御審議ヲ願ツテ居ル次第アリマス、是ガ要綱ノ第十一、第十二ニ記載シテアル事項デアリマス、次ニ要綱ノ第十三ハ授業料ノ關係デアリマシテ、青年學校ガ義務教育トナリマスル關係ニ於テ、是ハ授業料ハ徵收出來ナイト云フコトニ致シテ居リマス、但シ特別ノ事情ガアリマス場合ニハ監督官廳ノ認可ヲ受ケマシテ徵收スルコトガ出來ルノデアリマスガ、特別ノ事情ト申シマスルノハ、青年學校ニ於キマシテ非常ニ長時間ノ教授及び訓練ヲ施シマシテ、設備等ニモ相當ノ經費ヲ支出シテ居ルト云フヤウナサウ云フ所ヲ意味シテ居ルニアリマシテ、義務トシテ課スルヤウナ比較的少イ時間ヲ課シテ居リマス青年學校ニ對シマシテハ、授業料ヲ徵收セシメザル方針デアリマスコトハ申ス迄モナイ次第デゴザイマス、第十四ハ市町村ニ於キマシテ青年學校ニ關シマスル教育事務ノ爲ニ學務委員ヲ置クコトヲ義務付ケタイト考ヘテ居ルノデアリマス、青年學校ハ先程申上ゲマシ

ル所ノ青年ヲ就學致サシメマスルコトヲ本旨ト致シマスルモノデゴザイマスルカラシテ、此ノ就學ヲ圓滿ナラシメマスル爲ニハ社會ノ各方面ノ協力ヲ必要ト致スノデアリマス、斯ウ云フ見地ヨリ致シマシテ、制度致シマシテ、學務委員ヲ置キマシテ就學ノ獎勵其ノ他ノコトニ當ラシタルノデアリマスガ、尙文部當局ト致シマシテハ就學ノ獎勵施設ヲ講ジマスルコトガ非常ニ必要ニアルト考ヘマシテ、先程御協贊ヲ仰ギマシタ所ノ昭和十四年度ノ豫算ニハ取敢ズ十萬圓ノ就學獎勵費ヲ計上致シマス、是ハ其ノ次ノ事項ト關聯致スノデアリマスガ、男子青年ニ對スル所ノ青年學校ノ教育ハ之ヲ義務ト致シマシタ場合ニ於キマシテハ、之ヲ一舉ニ十二歳乃至十九歳ノモノニ對シテ一舉ニ義務付ケルト云フコトモ一ツノ方法デアリマスルシ、今日ノ時局ニ於キマシテサウ云フコトヲスル必要ガアルデハナイカト云フ議論モ十分ニ立チ得ルノデアリマス、併シナガラ之ヲ一舉ニ行ヒマスルコトハ各般ノ點ニ於テ相當ノ無理ヲ伴フノデアリマス、教育的見地カラ申シマスルナラバ、義務教育ト致シマシタ以上ハ、其ノ教育内容ヲ充實スルコトガ必要デゴザイマスルケレドモ、一舉ニ之ヲ一切ノ青年ノ義務ト致

シマシタ場合ニ於キマシテハ、必要ナ教員ヲ充足スルコトガ出來ナイノデアリマス、サウ云フ教員養成ト云フ見地カラ申シマシテモ、一舉ニ義務付ケルコトガ困難デアリマス、又青年學校ノ生徒ハ概不實務ニ從事シテ居ル者デアリマスカラ、今日俄カニ一切ノ青年ヲ青年學校ニ收容致シマシタ場合ニ於キマシテハ、是ガ産業界ニ及ボシマスル所ノ急激ナル影響ト云フモノヲ考慮致サケレバナラヌノデアリマス、一面ニ於キマシテ、一舉ニ義務教育ヲ行ヒマスルコトガ國家財政並ニ地方財政ニ及ボシマスル影響モ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、是等ヲ彼此綜合致シマシテ、此ノ青年學校ノ教育義務制ト學年進行ノ原則ニ從ヒマシテ逐次行シテ參ルト云フコトニ致シタノデアリマス、併シナガラ是ハ制度デアリマシテ實際ニ於キマシテハ政府ト致シマシテハ能フ限り就學ヲ獎勵致シマシテ、法制上義務ト相成シテ居ラナイモノニ於キマシテモ、此ノ機會ニ於キマシテ此ノ青年學校ノ就學ヲ獎勵シ、就學率ヲ高メル爲ニ努力致シタイトイ考ヘテ居リマス、此ノコトハ昭和十三年度以降ニ於キマシテ地方當局ニ於キマシテモ種種努力ヲ致シテ居リマシテ、今日相當ノ成績ヲ擧ゲツ、アルノデアリマスガ、昭和十

四年度以降ニ於キマシテハ、地方ニ於キマシテハ、一層此ノ方面ニ努力ヲ傾注致スヤウ種々努力致シタイト考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス、サウ云フコトデアリマシテ制度ノ上ニ於キマシテハ、昭和十四年度ニ於キマシテハ普通科第一年ニ向ツテ義務制ヲ法制的ニ強制シタイト斯ウ考ヘテ居リマス、即チ本年ノ三月ニ尋常小學校ヲ終リマスル者デ高等小學校、中等學校等ニ入學シナイ所ノ男子青年ヲ、此ノ際義務的ニ青年學校ガドノ位デアルカト申シマスレバ、當局ノヲ附記シテ居ルノデアリマス、其ノ生徒數推定致シマスル所ニ依ルト約十萬六千人ト推定致サレテ居ルノデアリマス、即チ義務制ヲ實施サレナカッタ場合ニ於キマシテハ恐ラク青年學校ニ就學ハシナイデアラウ、義務制ヲ實施シタ結果就學スルニ至ルモノト推定致サレマスル所ノ其ノ増加見込ハ十萬六千ト推定致サレマスルノハ昭和二十年度デアリマスルガ、昭和二十年度ニ於キマシテハ約百九十万ノ生徒ガ増加スルモノト推定致シテ居ルヤウナ次第デアリマス、デ此ノ十

萬人ガ今度新ニ義務トシテ就學ヲ強制セラ  
レルノデアリマスガ、是等ニ對シマシテハ、  
是等ノモノノ大部分ガ貧困ノ爲ニ從來青年  
學校ニ就學スルコトガ出來ナカッタノデア  
ルト云フコトデハ必ズシモナイノデアリマ  
シテ、種々ナル事情ニ依リマシテ從來青年  
學校ニ就學シナカッタモノト考ヘラレルノ  
デアリマスルガ、尙併シナガラ經濟的ノ事  
由ニ依リマシテ就學シ得ナカッタ者モ相當  
アルモノト考ヘルノデアリマス、政府ニ於  
キマシテハ、取敢ズ昭和十四年度ニ於キマ  
シテハ十萬圓ノ就學獎勵費ヲ計上致シマシ  
テ、是等ノ從來就學出來ナカッタ者ノ就學  
ヲ獎勵シタイト考ヘテ居ルノデアリマ  
ス、此ノ就學獎勵費ハ今後義務制ガ進捗ス  
ルニ伴ヒマシテ更ニ増大致サレテ來マスル  
コトハ固ヨリデアリマシテ、此ノ就學獎勵  
費、竝ニ其ノ市町村ニ於キマスル所ノ鄉黨  
ヲ舉ゲテ、其ノ郷里ノ青年ヲ守リ立テ、青  
年學校ニ入レテ、其ノ教育ヲ全カラシメル、  
サウ云フ風ナ空氣ノ下ニ青年學校ノ就學ヲ  
立派ニ致サセタイト、斯様ニ考ヘテ居ルヤ  
ウナ次第ゴザイマス、要綱ニ記載シテア  
リマスルコトハ大體斯ウ云フ事デアリマス  
ルガ、尙青年學校ノ教育ノ義務制ノ實施ニ  
關シマシテハ、先程申上ゲマシタヤウニ、

之ヲ教育審議會ニ諮問致シマシタ節ニ、教  
育審議會カラ種々ナル御希望ガ提示致サレ  
タノデアリマス、例ヘバ教員養成ニ付テ一  
層ノ努力ヲ致スヤウニ、斯様ナ御答申ニ相  
成ツテ居リマス、青年學校ニ於キマシテハ固  
ヨリ教員ニ其ノ人ヲ得マスルコトガ最モ肝  
要ナノデアリマシテ、教員養成ノ施設ニ對  
シマシテハ、十分努力ヲ傾注致サネバナラ  
ヌノデアリマス、斯ウ云フ見地ニ於キマシ  
テ、政府ニ於キマシテハ、昭和十四年度ニ  
於キマシテ約三十萬圓ノ經費ヲ道府縣ニ交  
付致シマシテ、現行ノ青年學校教員養成施設  
ノ整備擴充ニ當ラシムルコトト相成ツテ居リ  
マス、尙教員審議會ノ御答申ニハ、商工業  
竝ニ水產業ノ青年學校教員ノ養成ノ爲ニ  
ハ、國家ニ於テ特別ノ施設ヲ講ズルヲ適當  
トスルト云フ御答申ガアッタノデアリマスガ、  
之ニ對シマシテハ、當局ト致シマシテモ種  
種計畫ヲ致シタノデアリマスルガ、現下ノ  
國家ノ財政其ノ他ノ狀況ニ於キマシテ、  
今日直ニ之ヲ事施スルコトガ出來ナカッタ  
シテ居リマス、尙又府縣ニ大體四名ノ社會  
教育主事補ヲ增員スル見込ヲ以チマシテ、  
其ノ半額ヲ國庫カラ負擔スルコトニ致シマ  
シテ、其ノ經費ヲ補助致シテ居リマス、是  
等ニ依リマシテ取敢ズ、青年學校教育ノ指  
導ガ從來必ズシモ其ノ機關ガ充實シテ居ラ  
ズ、必ズシモ半分ニ行ツテ居リマセヌデシ  
タ其ノ缺陷ヲ補ヒタイト考ヘテ居ルヤウナ  
リマス、是ハ先程用所委員カラ御話モゴザ  
ルガ、尙青年學校ノ教育ノ義務制ノ實施ニ  
相成ツテ居リマス、從ヒマシテ政府ト致

之ヲ教育審議會ニ諸間致シマシタ節ニ、教  
育審議會カラ種々ナル御希望ガ提示致サレ  
タノデアリマス、例ヘバ教員養成ニ付テ一  
層ノ努力ヲ致スヤウニ、斯様ナ御答申ニ相  
成ツテ居リマス、青年學校ニ於キマシテハ固  
ヨリ教員ニ其ノ人ヲ得マスルコトガ最モ肝  
要ナノデアリマシテ、教員養成ノ施設ニ對  
シマシテハ、十分努力ヲ傾注致サネバナラ  
ヌノデアリマス、斯ウ云フ見地ニ於キマシ  
テ、政府ニ於キマシテハ、昭和十四年度ニ  
於キマシテ約三十萬圓ノ經費ヲ道府縣ニ交  
付致シマシテ、現行ノ青年學校教員養成施設  
ノ整備擴充ニ當ラシムルコトト相成ツテ居リ  
マス、尙教員審議會ノ御答申ニハ、商工業  
竝ニ水產業ノ青年學校教員ノ養成ノ爲ニ  
ハ、國家ニ於テ特別ノ施設ヲ講ズルヲ適當  
トスルト云フ御答申ガアッタノデアリマスガ、  
之ニ對シマシテハ、當局ト致シマシテモ種  
種計畫ヲ致シタノデアリマスルガ、現下ノ  
國家ノ財政其ノ他ノ狀況ニ於キマシテ、  
今日直ニ之ヲ事施スルコトガ出來ナカッタ  
シテ居リマス、尙又府縣ニ大體四名ノ社會  
教育主事補ヲ増員スル見込ヲ以チマシテ、  
其ノ半額ヲ國庫カラ負擔スルコトニ致シマ  
シテ、其ノ經費ヲ補助致シテ居リマス、是  
等ニ依リマシテ取敢ズ、青年學校教育ノ指  
導ガ從來必ズシモ其ノ機關ガ充實シテ居ラ  
ズ、必ズシモ半分ニ行ツテ居リマセヌデシ  
タ其ノ缺陷ヲ補ヒタイト考ヘテ居ルヤウナ  
リマス、是ハ先程用所委員カラ御話モゴザ  
ルガ、尙青年學校ノ教育ノ義務制ノ實施ニ  
相成ツテ居リマス、從ヒマシテ政府ト致

之ヲ教育審議會ニ諸間致シマシタ節ニ、教  
育審議會カラ種々ナル御希望ガ提示致サレ  
タノデアリマス、例ヘバ教員養成ニ付テ一  
層ノ努力ヲ致スヤウニ、斯様ナ御答申ニ相  
成ツテ居リマス、青年學校ニ於キマシテハ固  
ヨリ教員ニ其ノ人ヲ得マスルコトガ最モ肝  
要ナノデアリマシテ、教員養成ノ施設ニ對  
シマシテハ、十分努力ヲ傾注致サネバナラ  
ヌノデアリマス、斯ウ云フ見地ニ於キマシ  
テ、政府ニ於キマシテハ、昭和十四年度ニ  
於キマシテ約三十萬圓ノ經費ヲ道府縣ニ交  
付致シマシテ、現行ノ青年學校教員養成施設  
ノ整備擴充ニ當ラシムルコトト相成ツテ居リ  
マス、尙教員審議會ノ御答申ニハ、商工業  
竝ニ水產業ノ青年學校教員ノ養成ノ爲ニ  
ハ、國家ニ於テ特別ノ施設ヲ講ズルヲ適當  
トスルト云フ御答申ガアッタノデアリマスガ、  
之ニ對シマシテハ、當局ト致シマシテモ種  
種計畫ヲ致シタノデアリマスルガ、現下ノ  
國家ノ財政其ノ他ノ狀況ニ於キマシテ、  
今日直ニ之ヲ事施スルコトガ出來ナカッタ  
シテ居リマス、尙又府縣ニ大體四名ノ社會  
教育主事補ヲ増員スル見込ヲ以チマシテ、  
其ノ半額ヲ國庫カラ負擔スルコトニ致シマ  
シテ、其ノ經費ヲ補助致シテ居リマス、是  
等ニ依リマシテ取敢ズ、青年學校教育ノ指  
導ガ從來必ズシモ其ノ機關ガ充實シテ居ラ  
ズ、必ズシモ半分ニ行ツテ居リマセヌデシ  
タ其ノ缺陷ヲ補ヒタイト考ヘテ居ルヤウナ  
リマス、是ハ先程用所委員カラ御話モゴザ  
ルガ、尙青年學校ノ教育ノ義務制ノ實施ニ  
相成ツテ居リマス、從ヒマシテ政府ト致

於キマシテハ、教員俸給ノ約三割程度ニ當ルコト考ヘルノデアリマス、此ノ補助率モ今後逐次増大致サレテ行クト同時ニ、其ノ補助額モ逐次上ゲラレテ行クコト考ヘ致シマスル爲ニハ、獨り教員俸給ノミナラズ、其ノ他ノ方面ニ於テモ助成ノ方法ヲ講ズルノガ適當デハナイカト云フ、先程田所委員ノ御話モゴザイマンダ、サウ云フコトモ勿論考ヘラレルコトデゴザイマス、併シナガラ此ノ點ニ於キマシテハ、今日ノ小學校ノ義務教育ノ例ニ於キマシテモ、未だ教員俸給以外ニ國庫ノ負擔乃至ハ補助ガ大體ニ於テ及シ居ラナイ状態デアリマスルシ、青年學校ニ於キマシテモ、今日、其ノ他ノ方面ニ於キマスル所ノ國庫補助ノ方法ヲ講ジマスルコトハ、差當リ困難ナル事情ニ在ルノデアリマス、唯併シナガラ今日ノ状況ニ於キマシテ、放任シテ置キマスルコトハ誠ニ忍ビナイ點ガゴザイマスルノデ、些少デハゴザイマスルケレドモ、昭和十四年度ニ於キマシテ、設備ノ改善費ト致シマシテ、三十萬圓ノ設備改善ノ補助費ヲ計上致シテ居ル次第デゴザイマス、尙申遲レマンタガ、青年學校ノ教育ヲ、都市殊ニ勤勞青

年ニ對シマシテ行シテ參リマスル上ニ於キマシテハ、多數ノ青年ヲ抱ヘテ居リマスル所ノ會社、工場、或ハ官廳等ニ於キマシテ私立ノ青年學校ヲ作リマスコトハ、極メテ望マシコト考ヘルノデアリマス、私立ノ青年學校モ固ヨリ青年學校令ニ基キマシテ、國家ノ監督ノ下ニ行ハレルモノデゴザイマスルガ、斯ウ云フ私立青年學校ノ設立ヲ助成致シマスルコトガ、青年學校ノ教育ノ義務制ヲ實施スル上ニ於キマシテ、殊ニ其ノ最モ困難ト致サレマスル所ノ都市方面ニ於ケル所ノ義務制ノ實施ヲ容易ナラシムルモノデアリマスルカラ、當局ト致シマシテハ十分ナル監督ヲ加ヘツ、此ノ設置ニ付キマシテハ獎勵致シタイト考ヘテ居リマス、斯ウ云フ見地ニ於キマシテ、少額デハゴザリマスルカラ、當局ト致シマシテハ、私立青年學校ノ設置ヲ助成致シマスル爲ニ、取敢ズ五萬圓ノ補助費ヲ計上致シタルヤウナ次第デゴザイマス、大變整ハナイヤウデゴザイマスガ、大體青年學校教育ノ實務ニ關シマスル大要ヲ御説明致シタヤウナ次第デゴザイマス

○田所美治者序ニ關聯シテ一二伺ッテ置キマスガ、此ノ國庫補助法ト題シテ御出シ施ニ關シマスル大要ヲ御説明致シタヤウナ次第デゴザイマス

來ル譯デアリマスガ、文部當局モ御承知通リ、義務制ヲ今日實施シマスニ付テハ、一番困難ナノハ、市町村ノ財政ハ無論ノコトアリマスガ、是ハ一面ニハ父兄ノ貧乏ナ者ノ就學獎勵トナル譯デアリマスルガ、ソレガ餘程困難グラウト思ヒマス、義務教育ノ延長ヲヤリマスニ付テモ、幸ニモウ十二分ニ機ガ熟シテ來テ居リマスカラ、ソレデモ今日二十萬バカリ尋常小學ヲ終リマシテ最モ困難ト致サレマスル所ノ都市方面ニ於ケル所ノ義務制ノ實施ヲ容易ナラシムルモノデアリマスルカラ、當局ト致シマシテハ、何處ニモ行カナイ者ガアル、タッタ二十萬ダカラナンデモナイト思ヒマス、斯ウ一面デハ言フノデアリマス、其ノ二十萬ナル者ハマア家貧ニシテ、或ハ其ノ他ノ事情ニ依リマシテ、多クハ經濟上ノ事情デアリマセウ、年々百五十萬位出ル者ガ、百三十萬位ハ皆職業ヲ得テ居ル、殘ル二十萬位ガ尋常ハ小學デ已ムヲ得ズ丁稚小僧ニナッテ居ルト云フヤウナ譯デアリマス、仍テ今義務教育ノ延長ヲシマスニ付テモソレガ問題ニナックテ居リマス、又今度青年教育ノ普通科ヲ義務ニサレルト云フ場合ニ於キマシテモ、ソレハモウノヅビキナラヌコトデアリマス、ドウシテモ其ノ青年學校ニモ入レスト云フ者ガ今ノ御計算デハ十萬六千アルト云フコトハニアリマスマイガ、今ノ御説明ニモアッタヤ萬ト云フト、十萬六千人ノ人ガ總テ貧乏デケ其ノ就學獎勵ニ出スト云フコトデ豫算ニハアリマスマイガ、今ノ御説明ニモアッタヤ御取リニナルト云フコトデアリマスガ、十万ト云フト、十萬六千人ノ人ガ總テ貧乏デベ、就學獎勵金ガ一人ニ付テ一圓シカ當ラヌノデアリマス、セメテ百萬圓トカ、二百萬圓トカノ金デアリマスレバナンデアリマスガ、ソコノ所ヲ十萬圓位ノ金デハ甚ダ僅少デハナイカト考ヘマス、ソレカラ來年、

再來年ニナリマシテ、是ハ本科五年ヲ通ジ

マシテ義務ヲ強制スルトシテモ、今日ノ義務教育ノ如ク百ノ中九十幾ツ迄ソレヲ實施スルト云フコドハ大分先ノコトデアリマセウガ、ソレヲ實現スルヤウニシナケレバナルヌ、斯ウ云フ義務教育デアリマスカラ就學獎勵ニ關スル此ノ經濟上ノ補助支給ト云フモノニ非常ニ力ヲ入レナケレバナラズ問題デナイカト思フノデアリマス、今ハ軍需工業ガ盛ンデ、先程御説明ニモアツタ通リニ、勞働時間ヲ一定時數ニシテヤツテ居リマスカラ勉強ノ爲ニ行ッテモ給料ハ減ラヌノデアリマス、若クハ平時ノ場合ニ於キマシテモ就學獎勵費ト云フモノハ一面容易ニナリハシナイ、コンナ風ニ考ヘテ居リマスガ、サウスルト何故補助ノ中ノ一番重要ナ項目ト考へ、就學獎勵ノ爲ノ費用ヲ相當豫算ヲ以テ御定メハ將來實施上ノ状況ヲ見テ此ノ法律ノ改正ヲ御考ニナルノデアリマセウカ、ソンナ風ニチヨット考ヘマスルト、ナンダカ御説明デ能ク分リマシタガ、能ク分リマシタガ、就學獎勵ニ對シテノ補助ト云フモノガ餘り貧弱デアツテ、ソレデモ出來ルノデアリマセウカト、私ハ斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、十萬六千人ノ中今日ハ二萬人來テ、アトノ

マシテ義務ヲ強制スルトシテモ、今日ノ義務教育ノ如ク百ノ中九十幾ツ迄ソレヲ實施スルト云フコトデアリマスマイガ、今残ツウガ、ソレヲ實現スルヤウニシナケレバナルヌ、斯ウ云フ義務教育デアリマスカラ就學獎勵ニ關スル此ノ經濟上ノ補助支給ト云フモノニ非常ニ力ヲ入レナケレバナラズ問題デナイカト思フノデアリマス、今ハ軍需工業ガ盛ンデ、先程御説明ニモアツタ通リニ、勞働時間ヲ一定時數ニシテヤツテ居リマスカラ勉強ノ爲ニ行ッテモ給料ハ減ラヌノデアリマス、若クハ平時ノ場合ニ於キマシテモ就學獎勵費ト云フモノハ一面容易ニナリハシナイ、コンナ風ニ考ヘテ居リマスガ、サウスルト何故補助ノ中ノ一番重要ナ項目ト考へ、就學獎勵ノ爲ノ費用ヲ相當豫算ヲ以テ御定メハ將來實施上ノ状況ヲ見テ此ノ法律ノ改正ヲ御考ニナルノデアリマセウカ、ソンナ風ニチヨット考ヘマスルト、ナンダカ御説明デ能ク分リマシタガ、能ク分リマシタガ、就學獎勵ニ對シテノ補助ト云フモノガ餘り貧弱デアツテ、ソレデモ出來ルノデアリマセウカト、私ハ斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、十萬六千人ノ中今日ハ二萬人來テ、アトノ

七、八萬人ハ來ナクテ宜イト云フヤウナコトハマサカ御考デアリマスマイガ、今残ツユ云フ御意見ガ隨分アラカト存ズルノデスルト云フコトガ中心トナルベキウガ、ソレヲ實現スルヤウニシナケレバナルヌ、斯ウ云フ義務教育デアリマスカラ就學獎勵ニ關スル此ノ經濟上ノ補助支給ト云フモノニ非常ニ力ヲ入レナケレバナラズ問題デナイカト思フノデアリマス、今ハ軍需工業ガ盛ンデ、先程御説明ニモアツタ通リニ、勞働時間ヲ一定時數ニシテヤツテ居リマスカラ勉強ノ爲ニ行ッテモ給料ハ減ラヌノデアリマス、若クハ平時ノ場合ニ於キマシテモ就學獎勵費ト云フモノハ一面容易ニナリハシナイ、コンナ風ニ考ヘテ居リマスガ、サウスルト何故補助ノ中ノ一番重要ナ項目ト考へ、就學獎勵ノ爲ノ費用ヲ相當豫算ヲ以テ御定メハ將來實施上ノ状況ヲ見テ此ノ法律ノ改正ヲ御考ニナルノデアリマセウカ、ソンナ風ニチヨット考ヘマスルト、ナンダカ御説明デ能ク分リマシタガ、能ク分リマシタガ、就學獎勵ニ對シテノ補助ト云フモノガ餘り貧弱デアツテ、ソレデモ出來ルノデアリマセウカト、私ハ斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、十萬六千人ノ中今日ハ二萬人來テ、アトノ

七、八萬人ハ來ナクテ宜イト云フヤウナコトハマサカ御考デアリマスマイガ、今残ツユ云フ御意見ガ隨分アラカト存ズルノデスルト云フコトガ中心トナルベキウガ、ソレヲ實現スルヤウニシナケレバナルヌ、斯ウ云フ義務教育デアリマスカラ就學獎勵ニ關スル此ノ經濟上ノ補助支給ト云フモノニ非常ニ力ヲ入レナケレバナラズ問題デナイカト思フノデアリマス、今ハ軍需工業ガ盛ンデ、先程御説明ニモアツタ通リニ、勞働時間ヲ一定時數ニシテヤツテ居リマスカラ勉強ノ爲ニ行ッテモ給料ハ減ラヌノデアリマス、若クハ平時ノ場合ニ於キマシテモ就學獎勵費ト云フモノハ一面容易ニナリハシナイ、コンナ風ニ考ヘテ居リマスガ、サウスルト何故補助ノ中ノ一番重要ナ項目ト考へ、就學獎勵ノ爲ノ費用ヲ相當豫算ヲ以テ御定メハ將來實施上ノ状況ヲ見テ此ノ法律ノ改正ヲ御考ニナルノデアリマセウカ、ソンナ風ニチヨット考ヘマスルト、ナンダカ御説明デ能ク分リマシタガ、能ク分リマシタガ、就學獎勵ニ對シテノ補助ト云フモノガ餘り貧弱デアツテ、ソレデモ出來ルノデアリマセウカト、私ハ斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、十萬六千人ノ中今日ハ二萬人來テ、アトノ

○政府委員(田中重之君) 只今就學獎勵ノコトニ付キマシテ御質問又御意見ガゴザイマシタガ、全ク其ノ通リデアリマシテ、青年學校ノ就學ヲ全ウ致シマスル爲ニ、就學獎勵設施ト云フモノガ極メテ重大ナ要素ト相成ルノデアリマス、今回計上致シマシタノハ先程申上げマシタヤウニ普通科一年ニ強制致サルベキモノガ約十萬人ト推定致シマシテ、其ノ中ノ若干ノ者ガ貧困ノ爲ニ就學困難ト見マシテ、之ニ對スル補助費トシテ計上致シタ次第デゴザイマス、ソレデ青年學校ハ大體業務ノ餘暇ニ就學致シマスルノデ、茲ニ計上致シマシタモノハ雜費ト致シマシテ、其ノ中ノ若干ノ者ガ貧困ノ爲ニ就學困難ト見マシテ、之ニ對スル補助費トシテ計上致シタ次第デゴザイマス、ソレデ青年學校ハ大體業務ノ餘暇ニ就學致シマスルノデ、茲ニ計上致シマシタモノハ雜費ト致シマシテ、其ノ他ノ見地カラ之ヲ就學獎勵

七、八萬人ハ來ナクテ宜イト云フヤウナコトハマサカ御考デアリマスマイガ、今残ツユ云フ御意見ガ隨分アラカト存ズルノデスルト云フコトガ中心トナルベキウガ、ソレヲ實現スルヤウニシナケレバナルヌ、斯ウ云フ義務教育デアリマスカラ就學獎勵ニ關スル此ノ經濟上ノ補助支給ト云フモノニ非常ニ力ヲ入レナケレバナラズ問題デナイカト思フノデアリマス、今ハ軍需工業ガ盛ンデ、先程御説明ニモアツタ通リニ、勞働時間ヲ一定時數ニシテヤツテ居リマスカラ勉強ノ爲ニ行ッテモ給料ハ減ラヌノデアリマス、若クハ平時ノ場合ニ於キマシテモ就學獎勵費ト云フモノハ一面容易ニナリハシナイ、コンナ風ニ考ヘテ居リマスガ、サウスルト何故補助ノ中ノ一番重要ナ項目ト考へ、就學獎勵ノ爲ノ費用ヲ相當豫算ヲ以テ御定メハ將來實施上ノ状況ヲ見テ此ノ法律ノ改正ヲ御考ニナルノデアリマセウカ、ソンナ風ニチヨット考ヘマスルト、ナンダカ御説明デ能ク分リマシタガ、能ク分リマシタガ、就學獎勵ニ對シテノ補助ト云フモノガ餘り貧弱デアツテ、ソレデモ出來ルノデアリマセウカト、私ハ斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、十萬六千人ノ中今日ハ二萬人來テ、アトノ

七、八萬人ハ來ナクテ宜イト云フヤウナコトハマサカ御考デアリマスマイガ、今残ツユ云フ御意見ガ隨分アラカト存ズルノデスルト云フコトガ中心トナルベキウガ、ソレヲ實現スルヤウニシナケレバナルヌ、斯ウ云フ義務教育デアリマスカラ就學獎勵ニ關スル此ノ經濟上ノ補助支給ト云フモノニ非常ニ力ヲ入レナケレバナラズ問題デナイカト思フノデアリマス、今ハ軍需工業ガ盛ンデ、先程御説明ニモアツタ通リニ、勞働時間ヲ一定時數ニシテヤツテ居リマスカラ勉強ノ爲ニ行ッテモ給料ハ減ラヌノデアリマス、若クハ平時ノ場合ニ於キマシテモ就學獎勵費ト云フモノハ一面容易ニナリハシナイ、コンナ風ニ考ヘテ居リマスガ、サウスルト何故補助ノ中ノ一番重要ナ項目ト考へ、就學獎勵ノ爲ノ費用ヲ相當豫算ヲ以テ御定メハ將來實施上ノ状況ヲ見テ此ノ法律ノ改正ヲ御考ニナルノデアリマセウカ、ソンナ風ニチヨット考ヘマスルト、ナンダカ御説明デ能ク分リマシタガ、能ク分リマシタガ、就學獎勵ニ對シテノ補助ト云フモノガ餘り貧弱デアツテ、ソレデモ出來ルノデアリマセウカト、私ハ斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、十萬六千人ノ中今日ハ二萬人來テ、アトノ

七、八萬人ハ來ナクテ宜イト云フヤウナコトハマサカ御考デアリマスマイガ、今残ツユ云フ御意見ガ隨分アラカト存ズルノデスルト云フコトガ中心トナルベキウガ、ソレヲ實現スルヤウニシナケレバナルヌ、斯ウ云フ義務教育デアリマスカラ就學獎勵ニ關スル此ノ經濟上ノ補助支給ト云フモノニ非常ニ力ヲ入レナケレバナラズ問題デナイカト思フノデアリマス、今ハ軍需工業ガ盛ンデ、先程御説明ニモアツタ通リニ、勞働時間ヲ一定時數ニシテヤツテ居リマスカラ勉強ノ爲ニ行ッテモ給料ハ減ラヌノデアリマス、若クハ平時ノ場合ニ於キマシテモ就學獎勵費ト云フモノハ一面容易ニナリハシナイ、コンナ風ニ考ヘテ居リマスガ、サウスルト何故補助ノ中ノ一番重要ナ項目ト考へ、就學獎勵ノ爲ノ費用ヲ相當豫算ヲ以テ御定メハ將來實施上ノ状況ヲ見テ此ノ法律ノ改正ヲ御考ニナルノデアリマセウカ、ソンナ風ニチヨット考ヘマスルト、ナンダカ御説明デ能ク分リマシタガ、能ク分リマシタガ、就學獎勵ニ對シテノ補助ト云フモノガ餘り貧弱デアツテ、ソレデモ出來ルノデアリマセウカト、私ハ斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、十萬六千人ノ中今日ハ二萬人來テ、アトノ

ニ對シテノ俸給ヲ目當テニシタノデハナク、

現在ノ全體ニ對シテ將來七年後ニ初メテ義

務ニナル、六年後デアリマスカ、一年ヅツ

ヤッテ行ケバ六年後デアリマセウカ、昭和ノ

二十何年頃ニナッテヤッテ行ク、其ノ全額ノ

今ヤッテル費用ニ對シテ四百三十萬圓、是ハ

國庫ノ部合デ是ダケノ金額ニ制限ヲ御受ケ

ニナツタモノデアリマセウカ、サウ考ヘテ

宜イノデアリマスルカ、ソシテ又序ニ御計

畫ガアリマスナラバ、來年ハドウナルカ、

或ハ再來年ハドウナルカ、遂ニ完成ノ時期

ニハ文部省ノ御理想ノヤウニ行ハレマスマ

イト思ヒマス、全額負擔ト云フコトヲ期シマ

シテモ、財政ノ都合ガ是ハ大キナ金デアリ

マスカラ、ナカノ参リマスマイガ、大凡

文部省ノ當局デ御考ヘニナッテ居ル、將來ニ

對スル補助ノ御計畫ガアリマスルナラバ、

是ハ何時デモ宜シウゴザイマスカラ、参考

ニ伺ッテ置キタウゴザイマス、モウ一つハ、

今度義務ニナリマス爲ニ、何レ青年學校令

ヲ御出シニナリマセウト思ヒマス、今ノ省

令若クハ勅令モアリマセウガ、ソンナモノ

ハスカリ御整理ニナッテ完全ナモノニナサ

レマセウガ、ソレハ小學校令ニモ類スベキ

義務教育ノ大キナ法制デアリマスルカラ、

必ズ目下御審議中ト存ジマスケレドモ、其

ノ御腹案ガアリマスナラバ、項目デ宜シウ

ゴザイマスカラ頂戴ガ出來レバ仕合ダト思

ヒマス

○政府委員(田中重之君) 補助ノ關係デゴ

ザイマスルガ、今回計上シテデゴザイマス

ル所ノ四百三十萬圓ト申シマスルモノハ、

先程田所委員カラ御話ノゴザイマシタ通り

ニ、義務制實施以前ノ教員俸給ヲ籠スマシ

テ一體ト致シタモノデゴザイマス、ソレデ

位要ルカ、從ツテ又市町村負擔モドノ位ニナ

ルカト云フコトニ付テハ今暫ク經過ヲ見タ

イト云フ財政當局ノ方面ニハサウ云フ考ガ

アルノデアリマス、從ヒマシテ、之一面ニ

體從來義務制實施以前ニ於キマスル所ノ國

庫補助額ト云フモノハ之ヲ其ノ儘ニ致シテ

置キマシテ義務制實施以後ニ於キマスル所

ノ增加教員給ト云フモノヲ目當テニ致シマ

シテ補助計畫ヲ立て、居ルノデゴザイマス、

昭和十四年度ニ於キマシテ計上致シマシタ

方法ハ、大體ニ於キマシテ、義務制實施ノ

結果增加スベキ生徒數ヲ基準ト致シマシテ、

增加スベキ學級數ヲ大體推定シ、此ノ學級

アタリノ教員費ノ半額ヲ國庫ガ大體持ツ、

斯様ナ計畫ヲ以テ昭和十四年度ノ經費ハ計

上致シタノデアリマス、將來ノ見透シニ付

キマシテハ、義務制實施ニ依リマシテ生徒

ガドノ程度迄殖エテ行フカ、文部省ト致シ

マシテハ、就學率ガ百「パーセント」ニ達シ

マシタ場合ニ於テハ、斯ウ云フ生徒數ニナ

ルト云フ大體ノ推定數字ヲ有ツテ居ルノデアリ

アリマシテ、其ノ數字ハ御手許ニ差上ゲテ

アリマスル資料ニ詳細ニ記シテゴザイマス、

其ノ改正案ト云フモノハ八月下當局ニ於キ

マシテ私ノ御説明申上ゲマシタモノニ其ノ

ルカト云フコトニ付テハ今暫ク經過ヲ見タ

イト云フ財政當局ノ方面ニハサウ云フ考ガ

アルノデアリマス、從ヒマシテ、之一面ニ

於キマシテハ、近ク地方財政、地方稅制ノ

改革ト云フヤウナモノモ行ハレマスル氣運

モゴザイマスルノデ、地方財政ノ負擔力ト

云フヤウナモノニ對シマシテモ今日更ニ見

直サナケレバナラスト云フ點モゴザイマス

五十「パーセント」ト云フヤウニ今私ガ聽イ

務制實施前ノ分ノ費額ノ三十「パーセント」、

テ……今ノ御話ノ四百三十萬圓ハ在來ノ義

體トシテ見マスルコトハ今日尙困難ナ狀況

ニアルノデアリマス、唯只今申上ゲマシテ

タノデスガ、サウデスカ、確メテ置キタイ、

ソレカラ今度ノ增加人員ニ對スル學級割カ

ラ教員ヲ割出シテ假ニ其ノ半額トスルノデ

スガ、其ノ教員ノ俸給デスガ、在來ハ御承

知ノ非常ニ兼職ガ校長ヲ初メ多イヤウニ私

ハ記憶シテ居ルノデアリマスガ、此ノ十四

年度以後ノモサウ云フ費用ナンカヲ算出ス

参リマスルモノト致シマスルナラバ、昭和

ヒマスカ、ソレモ前ト同ジヤウニ見テ居リ

トデ算出シテ居リマスカ

○政府委員(田中重之君) 最初ノ私ノ御説

明ガ不明瞭デアック考ヘルノデアリマス  
ガ、在來ノ補助金ヲ据置キマシテ、其ノ上

ニ今度新タニ増加スル生徒數ヲ基準ト致シ  
マシタ所ノ教員給ノ約半額ト云フモノヲ見

込マシテ、合計致シマシテ四百三十萬圓ヲ  
計上シタノデゴザイマス、ソレガ在來ノモ  
ノト合セマシテ、教員給ノ全體カラ申シマ

シテ、取敢ヘズ昭和十四年度ニ於キマシテ  
ハ三割程度ニ達スル、斯ウ云フコトヲ申上

ゲタノデアリマス、ト申シマスノハ昭和十  
四年度ニ於キマシテハ先程申上ゲマシタヤ  
ウニ増加スペキ生徒數ハ十萬人程度デアリ

マス、義務制實施ノ曉ニ於キマシテ約百九  
十萬人程度ノ生徒ガ增加スルト推定致サレ

テ居リマス中ニ、昭和十四年度ニ於テ增加

スル生徒數ハ約十萬人ニ過ギナイノデゴザ

イマス、假ニ十萬ニ對シテ五割教員給ヲ負

擔致シマシテモ其ノ在來ノモノニ較ベマス  
ルト實ハ未ダ少ナインデアリマシテ、  
全體トシテノ補助率ニ影響スル點ガ少ナイ  
シテハ昭和十四年度ニ於キマシテハ十萬程

度ノモノガ増加致シマス、昭和十五年度ニ  
於キマシテモ矢張リ普通科第一年迄強制ス

ルノデゴザイマスカラ、生徒數ノ増加ハ總

體ニ二十萬程度ニ過ギナイノデゴザイマス、  
昭和十六年度ニ於キマシテ義務制ガ本科ニ

相成リマシタ時ニ於キマシテハ急激ニ増加  
スルノデアリマスガ、此ノ頃カラ致シマシ

テ新規補助額ト云フモノノ數ガ著増シテ參  
リマシテ、其ノ補助率ノ上ニ相當影響ガ現

ハレテ來ルノデハナイカトス様ニ考ヘテ居  
ル次第デアリマス、次ニ專任教員ト兼任教

員トノ關係デゴザイマスガ、御承知ノ如ク

今日青年學校ニ於キマシテハ專任教員ノ數

ニ較ベマシテ、兼任教員ノ數ガ非常ニ多イ

ノデアリマス、義務制ガ段々進捗シテ參リ

マシタ場合ニ於キマシテ、此ノ義務實施ニ

於ケル最モ重大ナ要點ノ一つハ專任教員ノ

充實ト云フコトニアルノデアリマシテ、當

局ト致シマシテハ此ノ義務制實施ノ結果、

一萬數千名程度ノ專任教員ノ增員ヲ大體見

越シテ居ル、從ツテ專任教員ノ擔任ノ部面

ガ多クナッテ參リマスルカラ、專任教員ト

兼任教員トノ比較ニ於テハ、兼任教員ノ比

率ハ義務制ガ進捗スルニ連レマシテ逐次

低下シテ行クモノト考ヘマス、併シナガラ

率ハ義務制ガ進捗スルニ連レマシテ逐次

面ノ知識ヲ之ニ集スマシテ教育ヲ施シテ行

クコトガ適當ナノデアリマス、從ヒマシテ、

單リ專任教員ノミナラズ、他ノ方面カラモ  
適當ナ者ヲ教員トシテ此ノ青年學校ニ入レ  
マシテ、其ノ鄉黨ノ青年ノ訓練ニ當ツテ行ク  
コトガ極メテ望マシイノデアリマシテ、從  
ヒマシテ義務制ガ進捗致シマシタ後ニ於キ

マシテモ、小學校教員ガ或程度迄普通學科ヲ

擔任スルト云フヤウナ事情ガ起リマスノハ

勿論ト致シマシテ、單リ小學校教員ノミナ

ラズ、又鄉黨ノ相當ノ人ナンカモ、相成ル

ベクハ教員トシテ教育ニ加ハルヤウナ途モ

ニ較ベマシテ、兼任教員ノ數ガ非常ニ多イ

ノデアリマス、義務制ガ段々進捗シテ參リ

マシタ場合ニ於キマシテ、此ノ義務實施ニ

於ケル最モ重大ナ要點ノ一つハ專任教員ノ

充實ト云フコトニアルノデアリマシテ、當

局ト致シマシテハ此ノ義務制實施ノ結果、

一萬數千名程度ノ專任教員ノ增員ヲ大體見

越シテ居ル、從ツテ專任教員ノ擔任ノ部面

ガ多クナッテ參リマスルカラ、專任教員ト

兼任教員トノ比較ニ於テハ、兼任教員ノ比

率ハ義務制ガ進捗スルニ連レマシテ逐次

低下シテ行クモノト考ヘマス、併シナガラ

率ハ義務制ガ進捗スルニ連レマシテ逐次

面ノ知識ヲ之ニ集スマシテ教育ヲ施シテ行

クコトガ適當ナノデアリマス、從ヒマシテ、  
○男爵大森佳一君 青年ノ保護者ノ就學義  
務ヲ根據付ケマス法規ガドウ云フ風ニナッテ  
モ小學校令ニ規定致サレテ居ルノデアリマ  
シテ、小學校ニ於キマシテモ其ノ小學校ノ

學校ノ規定ハ、單ニ勅令デ規定セラレルノ  
デアリマスカ、若シクハ法律ヲ以テセラレ  
ルノデアリマスカ、此ノ二點ニ付テ伺ヒタ  
コトガ極メテ望マシイノデアリマシテ、從  
ヒマシテ、其ノ鄉黨ノ青年ノ訓練ニ當ツテ行ク  
部面ハ、我が國ノ從來ノ沿革ニ則リマシテ  
ニ於キマシテ、其ノ學校制度ニ關シマスル  
校令ニ對シマシテ全面的ノ、全部ノ改正ヲ施  
勅令ヲ以テ規定ヲ致シテ參リタイ積リデゴ  
ザイマス、即チ現ニアリマスル所ノ青年學校  
シマシテ、改正青年學校令ヲ制定致シタイ、  
斯様ニ考ヘテ居ル次第デゴザイマス、而シ  
デ此ノ義務教育ノ側ニ於キマスル所ノ義務  
ヘテ居ラナイノデアリマス、矢張リ相當數  
ノ兼任教員ガ殘ルト考ヘテ居リマス、先程  
申上ゲマシタヤウニ教育改善ノ目標ト致シ  
ヲ規定致シマスルモノヲ、法律ヲ以テスル  
テ此ノ義務教育ノ側ニ於キマスル所ノ義務  
カ勅令ヲ以テスルカト云フ御毒デゴザイマ  
スガ、此ノ點ニ關シマシテハ此ノ保護者ニ  
スガ、此ノ點ニ關シマシテハ此ノ保護者ニ  
モナイノデアリマス、從ヒマシテ今日ノ如  
此ノコトハ既ニ御承知ノ如クニ我ガ國ニ於  
キマシテハ、學校制度ハ之ヲ勅令ヲ以テス  
ルト云フ沿革ニ相成ツテ居ルノデゴザイマ  
シテ、小學校ニ於キマシテモ其ノ小學校ノ

ニ於キマシテモ、此ノ沿革ニ從ハウト考ヘ  
テ居ル次第アリマス、唯併シナガラ青年  
學校ノ制度ヲ運用シテ行ク上ニ於キマシテ  
既存ノ法律ト關致シマスル場合ガアルノ  
デゴザイマス、サウ云フヤウナ當然法律ヲ  
要スベキ部面ニ付キマシテハ、法律ヲ以テ  
制定スルノガ當然デゴザイマシテ、先程申  
上ゲタヤウニ地方制度ト關聯致シマスル部  
面ニ於キマシテハ、地方學事通則ニ改正ヲ加  
ヘテ、又工場法其ノ他ノ勞働法規ト關聯致  
シマス部面ニ於キマシテハ、新タニ法律ヲ  
制定致シタイト考ヘルノデアリマス、更ニ  
又只今御審議ヲ煩ハシテ居リマス經費ノ補  
助ニ關シマス部面ニ關シマシテハ、是ハ補  
助法案ヲ御審議煩ハシタイ、斯様ニ考ヘテ  
居ル次第アリマス

以テスルコトガ至當デハナイカトモ考ヘマ  
スルガ、ソレハ兎モ角ト致シマシテモ、  
國民ノ義務トシテ就學義務ト云フ一種ノ責  
務ヲ國民ニ負擔セシメ、而モ經濟上ノ負擔  
モ、就學獎勵費迄出シマシテ之ヲ厲行シナ  
ケレバナラヌト云フ所ガ、初メテノ施設ニ  
試ミラレル關係カラ察シマシテ、經濟上  
ノ負擔モ苦シイモノデアラウト思ヒマス、  
ソコ迄忍ンデ義務付ケヨウツル性質カラ  
申シマシテモ、之ヲ法律ノ制度ヲ以テヤル  
ト云フコトハ、彼此ヲ考ヘマシテ相當ノコ  
トデハナイカ、法律上ソレヲサウシナケレ  
バナラナイト云フコトヨリモ、サウシタ方  
ガ好イ結果ニナル、私ハサウナリハセヌカ  
ト愚考致シマスケレドモ、單ニ沿革ガサウ  
デアルカラト云ウテ、サウシタ方ガ宜イト  
考ヘルナラバ、サウシタ方ガ宜ノデアル  
ケレドモ、サウシタ方ガ宜イト云フコトヲ  
シナイデ、沿革デ勅令ニ止メテ之ヲ決メテ  
シマフト云フコトハ、何ダカ受取レヌヤウ  
ナ考ヘモ致シマス、又市町村ニ對シテ此ノ  
制度ヲ設置セシムル義務ヲ負ハスル、此ノ  
點ニ至ツテハ法律ヲ以テセザルヲ得ネイ、法  
律關係デアラウト思ヒマス、ソレコレモウ  
少シ詳シク申上ゲレバ宜イノデスケレドモ、  
是ハ申サナクテモ私ノ質問スル趣旨ハ御分

リト思ヒマスカラ省キマスガ、モウ少シ私  
モ調べテ見タイト思フテ居リマスガ、其ノ邊  
ノ私ノ心持カラ御尋ラシテ、單ニ沿革ダケ  
デ宜シイデアルデアラウカ、法律ヲ以テ立  
派ニ制定サレタ方ガ宜イノデハナイカ、殊  
ニ國民ノ義務ニ大ナル、サウシテ將來日本  
人ヲ造ルト云フ所カラ云ウテ、所謂精神的  
ニモ非常ニ劃期的ノ意味ノアルコトヲスル  
ト云フ場合ニハ、勅令ト云フヨリモ法律ヲ  
以テシタ方ガ宜イノデヤナイカトモ私ハ思  
ヒマス、又市町村ニ對シテ義務付ケルト云  
フ法律關係カラ云ヒマシテモ、之ヲ法律ヲ  
以テスル、是ハ或ハ法律ヲ以テセラレルカ  
知レマセヌガ、兎ニ角ソレコレヲ考ヘマシテ  
テ、モウ一度私ノ當初ノ質問ニ對シマシテ  
御説明ヲ願ヘマスレバ、仕合セデアルト思  
ヒマス

ナガラ學校ノ制度ノコト、教育制度ノ根幹ニ關シマスルコトヲ勅令ヲ以テ規定スルト云フコトハ、明治初年以來既ニ定シテ居リマスル所ノ長年ノ沿革デゴザイマシテ、是ガ斯ウ云フ沿革ガ定リマシタニ付キマシテハ、十分深イ考慮ノ上ニ出タルコト私共モ推察致スノデゴザイマシテ、此ノ沿革ヲ今日變ヘマスルコトハ輕々ニ致スベキコトデハナリ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、從ヒマシテ教育制度コトハ、今日ニ於テハ大體ニ於テ勅令ヲ以テ規定致シマスノヲ至當ト考ヘルノデアリマシテ、ソレデ之ヲ青年學校ニ付キマシテモ、此ノ沿革ニ從ツテ勅令ヲ以テ規定スル、樞密顧問ノ御諮詢ヲ經マシテ、勅令トシテ之ヲ規定致シタイト斯様ニ考ヘル次第ナノデアリマス、尙地方制度ニ關聯スル部分デゴザイマス、是ハ法律ノ解釋論ミタイニナリマシテ大變恐縮ナノデゴザイマスガ、現在小學校ニ於キマシテモ市町村ノ義務ヲ小學校令ニ規定シテゴザイマスノデ、青年學校令ニ於キマシテモ市町村ノ義務ヲ青年學校令ニ於テ大體規定致シタイト考ヘテ居ルノデゴザイマス、是ハ御承知ノ如クニ、市制、町村制ニ於キマシテ、市町村ノ費用負擔ノ義務ト云フモノハ法律、勅令ヲ以テ定メル、斯様ナ制度ニ相成シテ居

ルノデアリマス、此ノ市制、町村制ノ現行ノ規定ガ果シテ適當ナモノデアルカドウカト云フコトニ關シマシテハ、是ハ各方面ニ於キマシテソレドモ、御意見モアルコトト考ヘルノデアリマス、唯併シナガラ現行ノ制度ニ於キマシテハ、市町村ニ對シマシテ國家ガ費用負擔ノ義務ヲ課シマス場合ニ於キマシテハ、法律、勅令ヲ以テナシ得ル、此ノ改正前ニ於キマシテハ、勅令以外ノ命令ヲ以テシテモナシ得ルト云フコトゴザイマシタノヲ後ニ改正致シマシテ、法律、勅令ヲ以テナシ得ル、斯様ナコトニ相成ツテ居ルデゴザイマシテ、是ハ市制、町村制ノ解釋論デ大變恐縮デゴザイマスケレドモ、サウ云フ現行ノ制度ニ相成ツテ居リマスノデ、是亦小學校令ニ倣ヒマシテ、市町村ニ關シマス義務モ、青年學校令ト申シマス勅令ヲ以テ大體規定シテ參リタイ、斯様ニ考ヘテ居ルヤウナ次第デゴザイマス

○男爵大森佳一君 御説明ハ有難ウゴザイマスガ、私マダ十分腑ニ落チマセヌカラ、尙考ヘマシテ御尋ヲ後日ニ致シタイト思ツテ居リマス

○男爵紀俊秀君 只今大森男爵カラ御話方アリ、又改メテ他日御話ガ出ルダラウト思ヒマスケレドモ、私モソレニ關聯シテ御伺

ヒシタイワデスガ、曾テ小學校ノ義務教育ノ延長說ヲ時ノ文相ノ平生サンガ、之ヲドウシテモ法律デヤラナケレバナラナイ、文教ノ尊サ、或ハ總テノ關係カラ今迄ハ勅令ニナツテ居ッタケレドモ、今度ハ改メテ之ヲ法律トシテ提出シタイト云フ意思ヲ持ツテ確カ樞密院ノ議ニモ掛ツタト存ジマス、既ニ平生サンガ文部大臣ノ時ニモ義務教育ノ延長ハ是非之ヲ法律ニシタイト云フ考ヲ持タレテ、何處迄モソレデヤリ通シタイ、斯ウ云フ考デアツト云フコトヲ承リマシテ、私實ニ其ノ勇斷ニ感服シテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ時世デモアリマシ、又折角青年學校ヲ義務制ニシヨウト云フコトヲ御考ニナッタタナラバ、今大森男爵ノ御話ノヤウニ、沿革ガドウデアルトカスウデアルトカト云此ノ際ニ社會教育トシテ最モ大事ナコトデアルカラ、是非之ヲ法律ニシナケレバナラヌト云フ大臣ノ御考ガ其處ニ何故御出ニナラナカツカト云フコトヲ私非常ニ遺憾ト思フノデアリマス、併シ將來勞働法トノ關係ノ法律ダトカ、或ハ國庫負擔法トカ、色々關係ノ法律ガ出マスノデ、ソレヲ俟チマシテ、總テヲ纏メテ、サウシテ一つ法律デ出スト云フヤウナ御意思デモ持テイラッシャ

ルノデ、先ヅ一時勅令トシテ置カウト云フ又考ヘ直スコトモアラウカト存ジマスガ、ヤウナ御考デアルカ、或ハ又矢張リ從前通りニ續ケテ行カウト云フ單ニソレダケノ御考デアルカ、ソレヲチヨット此ノ際ニ大臣カラ何ビタイト思ヒマス

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 之モ能クアル議論デアリマシテ、國民ノ義務ニ關スル法デアルカラ、法律ヲ以テ之ヲ規定スルガ宜シトイ云ラコトモ一應理由ニハナルノデスケレドモ、只今申上ゲマシタヤウニ、過去ニ於テ教育ニ關スル總テノサウ云フヤウナコトハ皆勅令ヲ以テシ、樞密院ノ御諮詢ヲ經、又ソレニ至ル迄ニハ單獨ニ文部省デ決定スルニアラズシテ、ソレドモ審議會ノ議會ニモ、此ノ議會ニモ、青年學校ノ問題ニ付キマシテ相當本會議ニ論議致シマシテ積リデスガ、當局ノ御考ト私ノ考ガ、甚其ノ他ノ方面ニ慎重ニヤッテ居リマスノデ、ダ遺憾ナガラ多少ノ相違ヲ見テ居ルノデアス時ニ唯一ツノ義務デアルカラシテ、直チニ法律ヲ以テスルト云フコトヲ輕々シク私ノデアル、斯ウ云フ風ニ認メラレテ居リマス、併シ既ニ青年學校ヲ御實施ニナルト云フコトガ決リマシタ以上ハ、假令其ノ前ニ異論ガアリマシテモ、之ヲ繰返ス必要リマス、ハナク、益、青年學校ノ健全ナル發達ヲ心力

ヘテ居ルヤウナ所ニハ到達シテ居リマセヌニナツテ居ッタケレドモ、今度ハ改メテ之ヲ法律トシテ提出シタイト云フコトヲ考ヘマシタノコトニ對シテ、時代ガ變ツテ參ルト云フリマスト、嘗テ本會議デ申シマシタ私ノ説共ガ其ノ儘デヤルト云フコトハ、總テノモノニ大キナ影響ラ及スノデハナイカ、斯ウ云フヤウナ考ヲ以チマシテ、慣行ニ從ツテ差支ナイモノ、只今斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、後日ノ問題トシテ、ソガレ色々ガ不幸ニシテ當ツタト云フコトヲ考ヘマシタノデ、御迷惑カモ知レマセヌガ、少シ澤山ヤウナコトニナツテ行キマス場合ニ於テハ、ナ書類ヲ御要求申シタイ、ソレハ何故サウ

云フコトヲ申上ゲルカト言フト、私ハ豫テ國民學校、即チ小學校ノ義務制延長ニ關シテハ、是程懸案ニナッテ居ルノニ何故政府が速力ニ之ヲ斷行シナイノカ、ソレニ反シテ青年學校ハ、成程教育審議會ニハ御諮詢ニナッテ居ルガ、極メテ倉率ノ間に輕率ニ之ヲ論議サセテ、サウシテ其ノ答申ヲ得、之ヲ直グニ實施スル、小學校ノ方ハ久シキ懸案デアルノニ之ヲ御解決ニナラズニ、青年學校ノ方ハ慌テ之ヲ審議會ニ論議サセテ決メタ、是ハ甚ダ遺憾ダト私ハ申シマシタ、處ガ先刻來色々此ノ委員會ノ狀況ヲ拜見シテ居リマスト、田所サンガ色々大層詳シ御質問ヲナサシテ居ル、サウシテ此處ニ頂戴シテ居ル書類ノ中ニモハ教育審議會ノ青年學校ヲ義務制スベシト云フコトニ付テ田所委員長カラノ御答申モアリマスノズ、教育審議會ノ特別委員長デイラッジヤル田所サンハ、定メテ教育審議會ノ十分サウ云フヤウナコトヲ御討議ニナッテ、サウシテ御得心ノ上デ愈、青年學校ノ義務制方實施ニナルコトニナックタ思テ居ツタノデアリマス、ソレニ對シテ田所サンハ無論異議ハ持ッティラッジヤルト云フノヲ、私ハ此處ニ出マシテ不審ニ思ツタ、サウシテ見ルト、成ル

程私ガ輕率ニ、教育審議會ニ論議サレタト言ッタコトガ間違タコトデナク、實際其ノ通リデアル、アノ位ニ御質問ガアツテ、アノ之ヲ直グニ實施スル、小學校ノ方ハ久シキ懸案デアルノニ之ヲ御解決ニナラズニ、青年學校ノ方ハ慌テ之ヲ審議會ニ論議サセテ決メタ、是ハ甚ダ遺憾ダト私ハ申シマシタ、處ガ先刻來色々此ノ委員會ノ狀況ヲ拜見シテ居リマスト、田所サンガ色々大層詳シ御質問ヲナサシテ居ル、サウシテ此處ニ頂戴シテ居ル書類ノ中ニモハ教育審議會ノ青年學校ヲ義務制スベシト云フコトニ付テ田所委員長カラノ御答申モアリマスノズ、教育審議會ノ特別委員長デイラッジヤル田所サンハ、定メテ教育審議會ノ十分サウ云フヤウナコトヲ御討議ニナッテ、サウシテ御得心ノ上デ愈、青年學校ノ義務制方實施ニナルコトニナックタ思テ居ツタノデアリマス、ソレニ對シテ田所サンハ無論異議ハ持ッティラッジヤラナイケレドモ、大分マダ疑問ヲ持テイテイラッジヤルト云フノヲ、私ハ此處ニ出マシテ不審ニ思ツタ、サウシテ見ルト、成ル

程私ガ輕率ニ、教育審議會ニ論議サレタト言ッタコトガ間違タコトデナク、實際其ノ通リデアル、アノ位ニ御質問ガアツテ、アノ之ヲ直グニ實施スル、小學校ノ方ハ久シキ懸案デアルノニ之ヲ御解決ニナラズニ、青年學校ノ方モ私ハ大體存ジテ居リマスケレテモ、尙一つ當局カラ其ノ授業日數ト學科目、之ヲ一ツ御示ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ先刻下村サンカラ御話ガアリマシタガ、專任ニ青年學校ノ教員ヲシテ居ル者敢ズ是ダケ一ツ御要求ヲ致シマス、少シ或ハ御無理ナ御要求カモ知レマセヌノデ、詳シイ事ハ要リマセヌ、成ルベク詳シイ事ヲ望ミマスケレドモ、御忙シイ際デアリマスカラ概略デ宜シウゴザイマスガ、成ルペク詳シク説明シテ戴ケレバ尙結構デアリマス、或ハ先刻頂戴致シマシタ此ノ書類ノ中ニアルコト重複スルカモ知レマセヌガ、マダ拜見シテ居リマセヌカラ、サウ云フコトハ此ノ書類ノ中ニアレバ結構デアリマス、現在在ノ青年學校ノ就學率ハドウ云フ就學率ニナッテ居ルカ、生徒數、ソレカラ出席率、之ノ比率ヲ見タイノデアリマス、是ハ都會トソレカラ農村ナドノ地方トノ區別ヲシテ戴キマシテ、都會ノ中デモ大中小ノ區別ヲ致

小學校ノ方モ私ハ大體存ジテ居リマスケレドモ、尙一つ當局カラ其ノ授業日數ト學科目、之ヲ一ツ御示ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ先刻下村サンカラ御話ガアリマシタガ、專任ニ青年學校ノ教員ヲシテ居ル者ガドレダケノ數デアルカ、兼務ハドレダケアルカ、ソレカラ兼務ヲシテ居ル人デ、承ル所ニ依ルト、中ニハ神職ノ人ガアリ、僧侶ノ人ガアリ、或ハ辯護士モアリ、醫者モアルト云フヤウナ話モ聞イテ居リマスガ、ソレハドチラガ本職ニナルカ知リマセヌガ、兎ニ角青年學校トヲ建立シテ居ル所ガ相當多イト云フヤウナ話モ聞イテ居リマスガ、其ノ數モ御示シ願ヘレバ有難イト思ヒマスガ、其ノ數モ御示シ願ヘレバ青年學校トヲ建立シテ居リマス、ソレカラ青年學校ト云フヤウナ話モ聞イテ居リマス所ト、又夜間ニシテ居リマス所ト、ソレカラ一週間ノ中デ二日トカ三日トカ云フヤウナ日ヲ之ニ充テ、居リマス所ト、一年ニ一度トカ、三度取ツテ居リマスル給料ノ一番高イ額ハドノ位ニナッテ居リマスカ、ソレカラ兼務ニ付テモ伺ヒタイト思ヒマス、ソレカラ全國青年學校ノ數ハ、此ノ戴キマシタ書類デ拜見致シマスレバソレデ宜シウゴザイマスガ、現在在青年學校ト稱スベキ數ガドレ位アルカ、ソレカラ青年學校ニ準ズベキモノヲ現在置

ルト、モウ一ツノ、何ト云ヒマスカ、學校ノ延長トシテ本當ノ學校生活ヲシテ居リマスガ、家政女學校、例ヘバモウ既ニ妻ニナックテ居ルトカ、家庭ヲ持ッテ居ルトカ、或ハ又女中デアルトカ云フヤウナ人ヲ、夜トカ晝間ノ幾許カノ時間ヲ割イテ教ヘテ居ルト云フヤウナ、公立或ヘ私立ノ家政女學校、ソレカラ女中學校ト云ヒマスカ、或ハ花嫁學校ト云ヒマスカ、サウ云フヤウナ數モオ分リニナリマスレバ御示ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ是ハオ分リニナレバ一ツ承リタイノデアリマスガ、高等小學ヲ卒業シマシテ、サウシテ色々ニ就キマスガ、ドウ云フ方面ニドレダケノ割合デ出テ行クカト云フヤウ卒業生ガ就職致シマシタラ、ドウ云フ方面ニドレダケノ割合デ出テ行クカト云フヤウ卒業生ノ就職ノ模様ヲ一ツ承リタイト思ヒマス、只今御要求スル所ハ先ヅソレダケデアリマス、併シソレガ御手間ガ取レマシテ、ソレガ爲ニ審議ガ遲レテ行クト云フコトモ如何カト思ヒマスカラ、ドウシテモ御調ノ困難ナモノハ、又後日ニ御譲リ戴イテモ宜シウゴザイマス、出來ルダケ一ツ願ッテ置キタイト思ヒマス

○委員長(侯爵德川義親君) ソレデハ本日

ハ是デ散會致シマス、此ノ次ハ月曜日ノ午

前カラト思ッタノデアリマスガ、速記ノ都合ガ惡イサウデアリマスカラ、午後一時半カラ開會致シタイト思ヒマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後零時散會

出席者左ノ如シ

委員長 侯爵徳川 義親君  
副委員長 子爵清岡 長言君  
委員 男爵紀 俊秀君  
下村 宏君  
男爵大森 佳一君  
田所 美治君  
細田安兵衛君  
岩崎 清行君

國務大臣

文部政務次官 小柳 牧衛君  
文部省社會教育局長 田中 重之君  
政府委員

文部政務大臣

男爵荒木 貞夫君

文部政務次官 小柳 牧衛君

文部省社會教育局長 田中 重之君

昭和十四年三月十一日印刷

昭和十四年三月十二日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局